

第4分科会 テーマ：河川の維持管理等における工夫事例（外来種対策を含む）

| No. | 題名                                       | 地方ブロック | 水系名<br>河川名   | 直轄/補助<br>(級別) | 河川概要                 |      |                                     |                     | 発表者    | 所属部署              |                        | 事業の概要   | 主な関係者   | 事業を進めるにあたっての課題、問題点、悩んでいる点  |
|-----|--|--------|--------------|---------------|----------------------|------|-------------------------------------|---------------------|--------|-------------------|------------------------|---|---|--|
|     |  |        |              |               | 河川の流域面積              | 河川分類 | 整備計画流量 <sup>※1</sup>                | セグメント <sup>※1</sup> |        | 機 関               | 部・事務所                  |   |   |  |
| 1   | 維持修繕工事における多自然川づくりの取組み<br>～持続可能な取組みを目指して～ | 九州     | 大淀川水系<br>丸谷川 | 補助(1級)        | 107.9km <sup>2</sup> | 中小河川 | 155m <sup>3</sup> /s<br>(W=1/5)     | 1                   | 満木 寿成  | 宮崎県               | 都城土木事務所                | ・河川工事を担う職員全員の多自然川づくりの基礎体力の強化を実施<br>・小規模な維持修繕工事（河岸修繕工事）において河川環境に配慮した工法の検討、実践<br>・護岸基礎部に根固ブロックを用いることで、侵食防止を図るとともに水生生物の生息場を創出<br>・盛土材は近傍の堆積土砂を溝状に掘削して調達することで、ワンドを創出  | (工事関係者) 福元建設株式会社  | —  |
| 2   | 新たな堤防植生管理の手法について                         | 近畿     | 淀川水系<br>木津川  | 直轄(1級)        | 1,596km <sup>2</sup> | 大河川  | 6,100m <sup>3</sup> /s<br>(W=1/150) | 2-1                 | 大久保 昌英 | 近畿地方整備局           | 近畿技術事務所                | 近年、堤防除草回数を削減した事により、堤防には背丈の高い外来雑草が繁茂し、シバ等の在来種が衰退傾向となり、堤防の耐久性・点検精度の低下・除草費の増大が問題となっている。これを解決する手法として、低草丈草種の導入・薬剤による堤防植生管理を試行し、絶大な効果が確認されつつあるので、その手法・成果を発表するものである。   | (調査設計関係者) 河川財団・日本工営設計共同体 宝藤 勝彦  | 外来種の適用・堤防への薬剤散布は河川管理ではタブー視されて来たため、実施を躊躇する河川管理者が多く現場展開が進まない事が想定される。 |
| 3   | 一庫ダムにおける河川環境復元対策と効果について                  | 近畿     | 淀川水系<br>一庫ダム | -             | -                    | -    | -                                   | -                   | 北爪 皓   | 独立行政法人<br>水資源機構   | 一庫ダム管理所                | 一庫ダムは淀川水系猪名川支川一庫大路次川に建設された重力式コンクリートダムであり、1983年に管理を開始した。一般的に、ダムを建設すると、その下流河川において土砂供給の遮断や河川流量の平滑化等により河川環境が変化するとされている。一庫ダムにおいても河床材料の粗粒化やヨシ、藻類の繁茂等により、魚類等の生息に適した環境が減少していった。そこで、2002年より土砂還元やフラッシュ放流等の河川環境復元対策を開始し、これら対策の効果検証を目的としたモニタリング調査を継続して実施している。本稿は、一庫ダムの河川環境復元対策の実施状況、及び現段階での効果検証結果について報告するものである。 | (学識経験者) 一般社団法人淡水生物研究所 森下郁子 所長<br>(関係団体) 猪名川漁業協同組合   | —  |
| 4   | 平取ダムにおける多自然川づくりの取組み                      | 北海道    | 沙流川水系<br>沙流川 | 直轄(1級)        | 1350km <sup>2</sup>  | 大河川  | 4,500m <sup>3</sup> /s<br>(W=1/70)  | M                   | 七五三 拓海 | 北海道開発局<br>室蘭開発建設部 | 鶴川沙流川河川事務所<br>平取ダム管理支所 | ・平取ダムは地域文化の保全に配慮しながら建設を行い、令和4年6月に完成、翌日より運用が開始<br>・ダム建設期に骨材採取で形成された窪地を活かした地域文化の伝承に欠かせない有用植物の保全の取り組み  | (地域の関係団体) 平取町役場<br>アイヌ施策推進課<br>アイヌ文化保全対策室   | ・地域文化に配慮した事例として類似のものがあればご教授いただきたい。                                 |
| 5   | ぼくらの川★生き物助け隊<br>～瀬名新川・水辺の小さな自然再生～        | 中部     | 巴川水系<br>瀬名新川 | 補助(2級)        | 0.93km <sup>2</sup>  | 都市河川 | 18m <sup>3</sup> /s<br>(W=1/3)      | 2-2                 | 島崎 優大  | 静岡県               | 静岡土木事務所                | ・流下断面の確保のため河床掘削工を行うにあたり、事前に希少種のマーキング及び種採取を地元中学生と共に実施し、工事で発生した玉石を寄せ石として残し、地元住民にて生き物が住みやすいように並び替えたことで、生息環境の保全が図れたとともに、かつての多様な生物も再生した。<br>・また、地元小学生から大学生までの学生と共に事前・事後調査を実施し、川への愛着や多自然川づくりへの理解を深めてもらうなど、多自然川づくりの担い手育成に取り組んだ。  | (流域住民) 静岡県科学技術高校 中安さん<br>(大学生) 東瀬名町の親子の皆さん<br>東海大学海洋学部水棲環境研究会<br>常葉大学自然体験活動クラブ「バイオエデュ」<br>(工事関係者) 有限会社オカムラ                | —  |
| 6   | 熊野川における魚道改修計画と基礎知識講座について                 | 北陸     | 神通川水系<br>熊野川 | 直轄(1級)        | 127.9km <sup>2</sup> | 中小河川 | 700m <sup>3</sup> /s<br>(W=1/50)    | 1                   | 山本 峻聖  | 富山県               | 土木部                    | 取水堰に設置されているが機能していない魚道や河川環境等について課題点を確認・整備の方向性を整理し、川づくり基本方針を設定した。さらに方針を踏まえて熊野川を3つにゾーニングし、それぞれで整備計画を設定した。<br>多様な主体による川づくりのきっかけとして大学生を対象とした基礎知識講座を開催している。   | (調査会社) 株式会社ニュージエック<br>(講座講演・参加者) 富山大学<br>富山県立大学<br>富山国際大学<br>(講座解説者) 応用生態工学会  | ・魚道改修前後における、コストのかからない魚の遡上数のモニタリング方法（なお、産卵床数の把握は、県水産研究所が毎年行っている）    |
| 7   | ～人と鳥の共生を目指して～<br>千葉ニュータウンにおける鳥害対策        | 関東     | 利根川水系<br>戸神川 | 補助(1級)        | 7.654km <sup>2</sup> | 中小河川 | 19.14m <sup>3</sup> /s<br>(W=1/30)  | 不明                  | 音 杏奈   | 千葉県               | 印旛土木事務所                | ・千葉ニュータウンの県立北総花の丘公園では、鳥類と共生するゾーンが位置づけられ、周辺では自然と共生したまちづくりが進んでいる。<br>・公園内にある調節池に隣接する住宅街において、カワウやサギによる騒音や悪臭等の鳥害が深刻化している。<br>・人と鳥の共生を目指す取組の現状及び今後の展望について発表する。   | (関係団体) 戸神台東自治会<br>公園指定管理者<br>(ヒアリング先専門家) 長岡技術科学大学 山本 麻希 准教授<br>国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 益子美由希 主任研究員<br>(協力団体) NPO行徳自然ほくらぶ | ・生態系の保全や適切な管理にあたって、広域で連携している事例があればご教授下さい。                          |